

令和7年度 学習の手引き



教 育 目 標

自立・貢献・協働

～自己の可能性を拓く～

『活三中』『当たり前前のレベルアップ』

海南市立第三中学校

年	組	番	氏 名
---	---	---	-----

令和7年度 学習内容一覧表(1年生)

海南市立第三中学校 1年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
考查	中間 5/31,6/1			期末 6/28～30		宿題テスト 8/末		中間 10/18、19		期末 11/29,30,12/1		3年期末 1/26～28 宿題テスト 1/上旬	1・2年期末 2/22,24,25	
国語	読話聞書 詩 物語		説明文		詩 説明文		物語・小説		記録文		古文 漢文 意見文		小説 随筆 詩	
	組み立てと部首 指示する語句と接続する語句					スピーチ					方言と共通語 漢字の音訓 言葉の関係を考えよう 案内文 ディスカッション			単語の性質 表現技法 漢字の成り立ち
社会	地理的分野 世界の様々な地域		歴史的分野 古代		歴史的分野 古代		地理的分野 世界の諸地域 アジア・ヨーロッパ		歴史的分野 中世		地理的分野 世界の諸地域 アフリカ・北アメリカ・南アメリカ		地理的分野 世界の諸地域 オセアニア	地理的分野 日本の様々な地域
数学	正の数・負の数		文字の式		方程式		変化と対応		平面図形		空間図形		データの活用	
理科	自然の中にあふれる生命 いろいろな生物とその共通点			身のまわりの物質				光・音・力による現象				活きている地球		
音楽	歌唱	鑑賞	歌唱		混声2部合唱				歌唱				鑑賞	
	音楽の基礎	リコーダー		鑑賞				ギター				箏	鑑賞	
美術	色の整理と色彩の基礎		作品鑑賞	レタリング	一版多色刷り		作品鑑賞	水墨画		陶芸		素描	作品鑑賞	
体育	体づくり運動	器械運動	水泳	球技(バレーボール)	ダンス	陸上競技	球技(ソフトボール)	長距離走		武道		球技(バスケットボール・バドミントン)		
保健	体育理論:スポーツの多様性				健康な生活と病気の予防								心身の発達と心の健康	
技術	ガイダンス	情報 情報基礎、プログラミング				生物育成 生物を育成する				材料と加工に関する技術				
家庭	わたしたちの食生活			わたしたちの食品の選択と調理									わたしたちのより豊かな食生活	
英語	場面の表現 英語と音と文字	be動詞・一般動詞 文のルール	身近な人や物を紹介し たりたずねたりする	疑問詞 前置詞	命令文 賛成や好きなどのを たずねる	三人称単数 現在のs	人称代名詞	現在進行形	want to look+形容詞	一般動詞の過去形・不規則動詞の 過去形	be動詞の過去形 過去進行形	総復習		
道徳	道徳教育全体計画に基づき、下記の四つの視点から道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。 A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること													
総合 その他	校外学習		防災学習		三中！ 学ぼうDAY！				地域学習 職場体験学習に向けて					
	防災学習		津波避難訓練		平和学習		体育祭		火災避難訓練		人権学習		津波避難訓練	

令和7年度 学習内容一覧表(2年生)

海南市立第三中学校 2年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
考查	中間 5/31,6/1			期末 6/28～30		宿題テスト 8/末		中間 10/18, 19		期末 11/29,30,12/1		3年期末 1/26～28 宿題テスト 1/上旬	1・2年期末 2/22,24,25	
国語	読話聞書	詩 小説	古文	報告文 短歌		小説 随筆	論説文 詩	古文 漢詩 評論		小説 詩				
		熟語の構成 単語をどう分ける 類義語・対義語・多義語				敬語・同訓同音 手紙や電子メールを書く 討論				用言の活用 話し言葉と書き言葉 送り仮名				
社会	歴史的分野 中世	地理的分野 日本の様々な地域	歴史的分野 近世		地理的分野 世界と比べた日本の地域の特徴	歴史的分野 近代	地理的分野 日本の諸地域 州・中四・四国・近畿・中国地方	地理的分野 日本の諸地域 京・東北・北海道地方		地理的分野 日本の諸地域 京・東北・北海道地方				
数学	式の計算	連立方程式			一次関数	図形の調べ方	図形の性質と証明				場合の数と確率	箱ひし図とデータの活用	総復習	
理科	化学変化と原子・分子			生物の体のつくりとはたらき			地球の大気と天気の変化		電流の性質とその利用					
音楽	歌唱			歌唱	混声2部合唱			歌唱	歌唱					
	音楽の基礎	鑑賞	リコーダー		鑑賞	ギター			箏		鑑賞			
美術	モダンテクニック	作品鑑賞	ピクトグラム		絵文字	作品鑑賞	和菓子		木彫 ネームプレート		作品鑑賞			
体育	体づくり運動	器械運動	水泳	球技(バレーボール)	ダンス	陸上競技	球技(ソフトボール)	長距離走	武道		球技(バスケットボール/バドミントン)			
保健	体育理論:スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方				健康な生活と病気の予防				傷害の防止					
技術	材料と加工 (材料の特徴、製図、設計、木材の加工、仕上げ)						情報 (プログラミング)							
家庭	わたしたちの衣生活			わたしたちの衣服制作				わたしたちの生活と住まい						
英語	未来形be going to will SVOO SVOC	接続詞	不定詞	総復習	助動詞 have to ... must 動名詞	疑問詞+ to	比較表現	総復習	受け身		総復習			
道徳	道徳教育全体計画に基づき、下記の四つの視点から道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。 A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること													
総合 その他	職場体験学習						三中! 学ぼうDAY!		啓発録				立志式	
	防災学習		津波避難訓練		平和学習	体育祭	火災避難訓練	人権学習	津波避難訓練					

令和7年度 学習内容一覧表(3年生)

海南市立第三中学校 3年生

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月			
考査	中間 5/31,6/1				期末 6/28～30		宿題テスト 8/末		中間 10/18、19		期末 11/29,30,12/1		3年期末 1/26～28 宿題テスト 1/月上旬	1・2年期末 2/22,24,25	
国語	読話聞書 詩 小説 熟語の読み方 和語漢語外来語 慣用句 ことわざ故事成語 議論		漢文		論説文 俳句		詩 小説 漢字のまとめ 文法のまとめ		論説文 古文 漢文		論説文		随筆 詩 学習のふりかえり		総 復 習
社会	歴史的分野 近代		歴史的分野 現代		公民的分野 現代社会と私たち		公民的分野 政治		公民的分野 経済		公民的分野 国際社会の諸課題				
数学	式の展開と因数分解		平方根		二次方程式		関数 $y=ax^2$		図形と相似		円の性質		三平方の定理 標本調査とデータの活用		
理科	生命の連続性		化学変化とイオン				運動とエネルギー		宇宙を観る		自然と人間				
音楽	歌唱 音楽の基礎		リコーダー 鑑賞		歌唱		混声2部歌唱 鑑賞		ギター		歌唱 鑑賞		歌唱 鑑賞		
美術	西洋美術史		ドライポイント				紙漉き 体験		コラージュ		鑑賞		和紙でランプシェード 鑑賞		
体育	体づくり運動		器械運動		水泳 球技(バレーボール)		ダンス		陸上競技		球技(ソフトボール)		長距離走		武道 球技(バスケットボール・バドミントン)
保健	体育理論:文化としてのスポーツ					健康な生活と病気の予防					健康と環境				
技術	エネルギー変換								情報 (プログラミング)						
家庭	私たちの消費生活と環境					わたしたちの成長と家族・地域		幼児とのふれあい			自立と共生を目指して				
英語	2年の復習	現在完了形 (経験用法)	現在完了形 (継続用法) 現在完了進行形	いろいろな不定詞		総復習	関係節疑問文 現在分詞・過去分詞		接触節 関係代名詞		仮定法		総復習		
道徳	道徳教育全体計画に基づき、下記の四つの視点から道徳的な心情、判断力、実践意欲と態度などの道徳性を養う。 A 主として自分自身に関すること B 主として人との関わりに関すること C 主として集団や社会との関わりに関すること D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること														
総合 その他	福祉講演会、福祉体験							三中！ 学ぼうDAY！		福祉施設訪問		福祉学習			
	防災学習		修学旅行		津波避難訓練		平和学習		体育祭		火災避難訓練		人権学習 津波避難訓練		

観点別学習状況の評価と評定

1 観点別学習状況の評価

全ての教科は3つの観点で学習状況の評価を行い、

「十分満足できる」状況と判断されるものを	A
「おおむね満足できる」状況と判断されるものを	B
「努力を要する」状況と判断されるものを	C

として、評価します。

評価方法は、「観察、生徒との対話、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、質問紙、実技テスト、面接など」の中から学習の状況を的確に評価できる方法を選択します。

A・B・Cを判定する場合の区分は、次のとおりです。

A : 80～100%	B : 40～80%未満	C : 0～40%未満
-------------	--------------	-------------

2 評定

評定は、「観点別学習状況の評価」として行ったA・B・Cの組み合わせに基づいて総括し、5段階で行います。

評定は、教科の目標に照らして、その実現状況を

「十分満足できるもののうち、特に程度が高い」状況と判断されるものを	5
「十分に満足できる」状況と判断されるものを	4
「おおむね満足できる」状況と判断されるものを	3
「努力を要する」状況と判断されるものを	2
「一層努力を要する」状況と判断されるものを	1

として、評価します。

「観点別学習状況の評価」として行ったA・B・Cの組み合わせと評定は、次の表のとおりです。

<3観点>

評価	評定
AAA	5・4
AAB	4・3・5
ABB	3・4
AAC	3・4
BBB	3
ABC	3
BBC	3・2
ACC	3・2
BCC	2・3・1
CCC	1・2

* A・B・Cの組み合わせにより、2つ以上の評定がある理由について

各観点を100点、総合得点を300点として考えると、たとえば「AAA」は300点から240点までの幅があることとなります。

そのため、同じ観点別評価の組合せであっても、「十分満足できる」状況と判断されるものが「4」、「十分満足できるもののうち特に程度が高い」状況と判断されるものが「5」の両方の評定が存在します。

国 語

1 はじめに

国語科は、国語による表現力と理解力とを育成するとともに、人と人との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら言葉で「伝えあう力」を高めることを目標としています。これまで小学校で学んできた内容をさらに系統的・段階的につなげていながら、反復的に繰り返し学習することで、学力の定着を図ることを基本として授業を進めていきます。「話す・聞く・書く・読む」さまざまな伝達方法を学び、言語活動を通して学級の仲間とともに伝えあう力を高めていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・ 学年別漢字配当の漢字を文や文章で使う。
 - ・ 古典や漢文の基本知識を理解している。
 - ・ 文法を正しく理解する。
- 定期テスト、小テスト、プリント、ノート等で評価します。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・ 発表、意見交流など授業での活動
発表の原稿作りやメモの取り方、相手の発言の要点整理など「話す・聞く」の単元目標にどれぐらい近づいているかで評価します。
 - ・ 聞き取りテスト
 - ・ 作文、感想、課題作文、鑑賞文、定期テスト等
定期テスト、ノート、プリントなど提出物で評価します。
 - ・ 文脈の中で語句の意味を的確に捉え理解する。
 - ・ 小説など場面を理解し読み味わう。
 - ・ 文章から必要な情報を読み取る。
- 定期テスト、宿題テスト、プリント、ノート等で評価します。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

- ・ 授業に取り組む姿勢
課題に対して取り組む姿勢を評価します。課題に積極的に取り組み、他の人の意見もしっかり聞き、自分の意見も伝えよう。
- ・ ノート
定期的に提出し評価します。気付いたことや感想などメモを書き込もう。
- ・ ワーク
定期的に提出し評価します。答え合わせを必ずして提出しましょう。

4 学習の進め方

国語は、日頃からの地道な努力で力がついていく教科です。気になる言葉や分からない言葉は、積極的に辞書で調べてみましょう。また、本を読む習慣を付け、短い時間でもいいですから集中して読書をするようにしましょう。続きを読みたいと思える本にたくさん出会うことが、国語力をアップさせることになるはずです。また、教科書は繰り返し読み、ワークも何度も繰り返し行いましょう。

社 会

1 はじめに

どうしてウクライナとロシアは戦争しているのだろう??

社会科の魅力は、世の中の出来事やその背景について深く理解できるようになることです。皆さん、ウクライナとロシアが戦争していることを知っていますか？この戦争は現在も続いており、今も多くの犠牲者が出ています。そもそも両国はどのように戦争をしているのでしょうか？これを理解するには、ロシアやウクライナを中心としたヨーロッパの歴史や地理について学ぶ必要があります。また、世界の食糧事情、エネルギー事情についての知識も欠かせません。ウクライナとロシアとの戦争が続くことで、私たちの生活にも様々な影響が出ました。

- ・小麦粉をはじめ多くの食料の値上がり
- ・電気代の値上がり
- ・ヨーロッパへの移動時間が長くなった など

どうしてこのような影響が出たのでしょうか??

課題を解決する能力

私たちはこのウクライナとロシアの問題について、何もせずただ様子を見ているだけでよいのでしょうか。問題解決のために何かできることはないでしょうか。

社会科の学習では、社会（＝世の中）で起きている、または過去に起きた事柄について、様々な視点や考え方に触れながら課題を追究したり解決したりする活動を行います。この活動を通じて、国民一人一人が平和でより良い社会を実現し、協力して共に生きていくための資質・能力の基礎を高めていきます。

どうして社会科を学習するの？

社会科を学ぶ目的は、A. 世界中の全ての人々が幸せな生活を送ることができる世の中を実現する力を一人一人が身に付けることです。この力を身に付けるために、身近な地域の成り立ちや世界の中での日本の立場を理解し（地理的分野）、各地域や国が作ってきた文化や歴史を知る（歴史的分野）必要があります。

社会科の授業は地理的分野（以下地理）、歴史的分野（以下歴史）、公民的分野（以下公民）の3分野に分かれており、1、2年生では地理及び歴史、3年生では歴史及び公民を学習します。社会科で学習する内容は皆さんの日常生活と深く関わっており、年齢が上がるにつれてその学習の意味が少しずつ理解できるようになるでしょう。日本を含め世界中の人々が平和でより良い社会を実現するために、共に協力して社会科の授業に取り組みましょう。

2 学習のねらい

- （1）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- （2）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- （3）社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養されるわが国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

学習した内容がどれだけ身に付いているか、資料を活用したり読み取ったり、分析する技能等を評価します。

(定期テスト、小テスト、課題、レポートで評価)

観点Ⅱ 思考・判断・表現

学習で得た知識や技能を活用して、課題を解決するためのより良い解決策を考えたり、説明したりすることができるかを評価します。

(ノート、ワークシート、定期テスト、課題、レポートで評価)

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

自分の学習状況を把握し、知識や技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力を身に付けたりするために、学習の方法を試行錯誤しながら学ぼうとしているかを評価します。

(ノートの内容、授業への取組姿勢、振り返りシート)

4 学習の進め方

「わかる」→「できる」→「楽しい」→「もっと深く学びたい」という気持ちを持ち続けることがとても大切です。「わかる」「できる」ようになるために・・・、

日常の学習

- ①日々の授業で習ったことを自主学習ノートにまとめて復習する。
- ②ワークの宿題で確実に学習内容を定着させる。
- ③学習内容で気になったことはさらに深く調べる
- ④ワーク以外の問題集を用意していろいろな問題を解く
- ⑤授業でわからないこと、また、素朴な疑問があれば社会科の先生に積極的に質問する
- ⑥小テストで毎回満点を目指す

定期テストが近づいてきたら・・・

- ①テスト範囲のワークを計4回くり返して学習し、内容を完璧に理解する
 - 1回目・・・何も見ずに解き、わからない問題を明確にする
 - 2回目・・・わからなかった問題を教科書等で確認しながら解く
 - 3回目・・・再び何も見ずに解き、わからない問題を確認する
 - 4回目・・・テスト前日、テストに問題が出たつもりで何も見ずに解く
- ※1, 2回目はテスト発表の一週間前までに済ませておく。
- ②教科書を隅々まで読み、太字の語句を説明できるようにする
- ③グラフや表を読み取り、読み取った内容を適切に記述できるようにする

数 学

1 はじめに

数学を学んでいく中で得る「知識・技能」や「思考・判断・表現」は、数学の問題だけでなく、身のまわりの課題を考えるときにも役に立ちます。特に「物事をすじ道を立てて考えること」「正確に手際よく場に応じた処理をすること」はとても大切になります。それらを身につけるために、「既習事項をもとにして、新しい課題を解決していくこと」が必要になってきます。自分から進んで物事を多面的・多角的に捉え解決していこうとする姿勢を身に付け、数学の世界をさらに広げていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・ 計算力・処理能力について、宿題テスト、定期考査など学習の確認テストを中心に評価します。
- ・ 計算法則や用語の意味、公式の内容などをきちんと理解できているかについて、宿題テスト、定期考査などを中心に評価します。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・ これまで学習した知識を活用する力について、宿題テスト、定期考査などの文章問題や応用問題を中心に評価します。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

・ 授業に取り組む姿勢

課題に対して取り組む姿勢を評価します。数学科では基本的に1時間にひとつ新しいことを学習します。新しく習うことに対して間違えることを恥ずかしがらず、積極的に授業に取り組みましょう。そして、互いに教え合い、学び合うことを大切にしましょう。また定期的に小テストや学習の振り返りシートや練習問題を使って学んだことの振り返りで評価します。

・ ノート（ファイル）

定期的に提出し評価します。板書をノートにきちんと写しましょう。また、気づいたことや先生及び他者の発言で大事だと思ったことを自分でメモするなど工夫しましょう。

・ ワーク

定期的に提出し評価します。答え合わせをきちんとして、間違った問題は必ず赤で直しをして提出しましょう。

・ 小テスト

定期的に小テストを行います。期限内であれば合格点に達するまで何度も再テストをすることができるので、合格点に達するまで何度も挑戦しましょう。

※観点Ⅱは応用問題が中心です。数学が苦手な人はワークの応用問題、教科書の章末問題などでパターンを覚えるのもひとつの方法です。数学が得意な人は、どんどん応用問題に挑戦して、観点Ⅱを意識して頑張しましょう。

4 学習の進め方

数学は予習よりも復習が大切です。授業中に理解できたと思っても、実際は理解していなかったという場合も多々あります。そのため、その日に学習した内容を教科書の問題やワークなどを用いて反復練習をすることが大切です。特に計算技能は、慣れるまでに何度も何度も繰り返し練習しましょう。また、数学はいかに早く正確に解くかが大切です。何度も繰り返して練習し内容が定着した後は、素早く解くことができるように練習しましょう。また他者に正確に教えてあげることによって自分の理解度アップにもつながります。数学は苦手と思っている人も、焦らず粘り強く解くことを意識しよう。そうすることで必ず成果は出てきます。

理 科

1 はじめに

理科の学習で本当に大切なことは、普段の生活の中で感じた「おもしろいな、不思議だな、なぜだろう」と思ったことを自分の力で解決していくことです。自ら進んで実験や観察を行い、その結果をもとに「どうしてこうなるのかな？」といろいろな考えを深めていくことが理科の学習の時間なのです。単に、結論だけを覚えるのではなく、常に疑問を持ちながら学習を進めていくことが大切です。一人一人が科学者になったつもりで、これからの理科学習にチャレンジしてください。

2 学習のねらい

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・ 自然の事物・現象に関する語句の意味や学習内容の知識を十分に習得できているかを評価します。

【評価方法】定期テスト（知識の習得を問う問題）、小テスト、提出物など。

- ・ 実験・観察の器具操作の技能や、結果のまとめ方（グラフや作図など）を評価します。

【評価方法】実験器具の操作技術（実技テスト）、実験レポートなど。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・ 物事を筋道立てて考える力や実験結果・グラフなどから規則性を導き出す力、レポートにまとめる力などを評価します。

【評価方法】定期テスト（思考・判断・表現を問う問題）、実験レポート、観察・実験・物事への考察、小テストなど。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

- ・ 授業に取り組む姿勢、目的意識を持って実験・観察に取り組んでいるか、自分の課題克服にどう取り組むかを評価します。

【評価方法】行動観察（授業の様子や話し合いの態度、実験・観察への取り組み姿勢など）、提出物（ノートやワーク、プリントなど）、小テストなど。

4 学習の進め方

理科の授業では、観察・実験がとても重要です。実験・観察を行うときには、しっかり目的意識をもって積極的に参加し、レポートにまとめましょう。また、安全に気を付け、理科室でのマナーをしっかり守りましょう。

理科は予習よりも復習が大切です。授業中には理解できたことが、何日か経つと忘れてしまっている場合もあります。そのため「家庭学習の手引き」を参考に復習しましょう。

音 楽

1 はじめに

音楽に触れることで、生活や社会の中の音、音楽文化について理解を深め、仲間と共有し合うなど生涯に於いて楽しむために、歌唱や器楽演奏、鑑賞などの活動を通してその方法を学びます。クラシックを中心に、さまざまなジャンルの音楽に触れ、音楽の世界を広げていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識・技能

- ・授業で学んだ知識や、既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、生活の場面でも活用できる程度に概念を理解したり、技能を習得したりしているかを評価します。
- 評価対象は、小テスト、定期テストにおいて、事実に基づく知識を問う問題、実技テスト等です。

観点Ⅱ 思考・判断・表現

- ・知識や技能を活用して解決する等のために必要な思考力、判断力を身に付けているか、また、生活や社会における音楽の働き、音楽文化についての表現力等を評価します。
- 評価対象は、鑑賞の感想文や、作品、レポートの作成、グループでの話し合い等です。

観点Ⅲ 主体的に学習に取り組む態度

- ・授業での様子や準備物の忘れ物、提出物、自らの学習状況を把握し、学習の進め方を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価します。
- 評価対象は、授業中の態度、提出物、授業中の取組等です。

4 学習の進め方

- ・鑑賞では、ワークシートの記述や、単元ごとの小テストを行います。
- ・教材によってグループ活動で意見交流をします。

美術

1 はじめに

美術科で学ぶ内容は、私たちの生活を楽しく、豊かにする身近なものに関わっています。Heart（心）という単語には、art の文字が入っているように、art（芸術）は Heart（心）の一部であり、心、感性を豊にするための見方や考え方を、表現の学習や鑑賞の学習で身に着けていきましょう。

2 学習のねらい

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識及技能

課題に対しての発想、構想したことをもとに材料や用具の特性を生かし、造形的な視点を持った知識をふまえて表現する技能が身に付いているか、それが作品に表現されているかを評価します。評価対象は、作品（描画、色彩、彫り、刷り等）、実技テスト等です。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

作品から、与えられた課題に対して心豊かに構想を練る能力、そしてそれを表現しようとする能力を評価します。評価対象は、作品（アイデア、構図、レイアウト等）、実技テスト等です。鑑賞における見方や感じ方に関するものも含まれます。

観点Ⅲ 主体的に取り組む態度

作品制作における主体的に取り組む意欲、態度、普段の授業での様子や準備物の忘れ物、提出物、美術室の使い方、自分の作品や他の生徒の作品への配慮などを加味して評価します。評価対象は、授業中の作品制作の意欲、態度、準備・後片付け、提出物、定期テスト等です。

4 学習の進め方

- ・各自の活動を基本としますが、教材によってグループ学習を行うこともあります。
- ・教科書を補充するものとして美術資料を使用し、教材や制作に関わり派生する知識や発想のヒントとして、また鑑賞の題材として扱います。
- ・液晶ディスプレイやタブレットを使ってより理解しやすい学習を行います。

保健体育

1 はじめに

保健体育の学習は、〔体育分野〕と〔保健分野〕に分かれています。〔体育分野〕では、専門的な運動に取り組めます。〔保健分野〕では、主に人間の体や心について学習します。

〔体育分野〕で学習する内容

A 体づくり運動 B 器械運動 C 陸上競技 D 水泳 E 球技 F 武道
G ダンス H 体育理論

〔保健分野〕で学習する内容

- (1) 健康な生活と病気の予防【全学年】 (2) 心身の発達と心の健康【1年】
- (3) 傷害の防止【2年】 (4) 健康と環境【3年】

2 学習のねらい

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

○知識及び技能について

- ・「運動の特性や成り立ち」「技術（技）の名称や行い方」などについて、年間3回の期末テスト、ワークシート、授業中の発言の中で評価します。【知識】
- ・個人種目や対人種目、集団種目などの運動の特性に応じて、実技活動を評価します。【技能】

○思考力、判断力、表現力等について

- ・授業中の安全面への配慮、友だちへのアドバイス、発言、学習カードや保健学習ノートの内容等を評価します。自己や仲間の課題の発見や解決に向けての運動の取り組み方の工夫や、自分の考えを話したり、記入したりなど、表現方法を駆使して他者に伝えられているか。

○学びに向かう力、人間性等について

- ・授業態度（授業への取り組む姿勢、欠席、見学、服装、忘れ物、提出物、遅刻、準備や後片付け等も含む）を総合的に評価します。自己の課題を捉え、自分に何が必要かを分析して取り組んでいるかや、粘り強く学習に向かう姿勢があるか。

4 授業での約束事

○規則正しい授業

- ・服装を正す…シャツはズボンに入れる。腕まくりをしない。腰パンをしないなど。
- ・挨拶、返事、受け答え…初めと終わりの挨拶は、集中した状態を作ることがとても大切です。呼名に対しては、「はい」としっかり返事をしよう。
- ・忘れ物をしない。

○安全面への留意

- ・単元の始めには、安全面での注意事項を確認します。それらを必ず守ること。
- ・ケガのないように、集中して取り組むこと。

5 用意するもの

「中学校体育実技（3年生）」「ステップアップ中学体育（1・2年生）」、体育ファイル、筆記用具の3点を体育セットとします。（保健は中学保健体育、保健学習ノート、筆記用具）

6 服装

体操服（身だしなみを整えて、心身ともにさわやかな気持ちで授業に臨む。）

7 その他

○様々なスポーツを知ろう。（TV等メディアを通してプロ選手によるスポーツを見ることや実際に競技場に行って観戦したりしてスポーツを楽しもう。）

技 術

1 はじめに

中学校の技術科では、「材料と加工に関する技術」「エネルギー変換に関する技術」「生物育成に関する技術」「情報に関する技術」の4つの内容を学習します。

2 学習のねらい

- （1）生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関りについて理解を深める。
- （2）生活や社会の中から技術にかかわる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- （3）よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

技術科の評価は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点別評価があります。

観点Ⅰ 知識及び技能

用具や道具を正しく安全に使い、課題に対しての発想、構想したことをもとに材料や用具の特性を生かし、見通しを持って技術を適切に活用する技能が身に付いているか、それが作品に反映されているかを評価します。評価対象は 作品、定期テスト等です。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

学習したことについて、考え、工夫し、自ら課題を見付け、工夫しようとする能力を評価します。評価対象は、作品、実習、レポート、定期テスト等です。

観点Ⅲ 学びに向かう力、人間性等

授業に向かう意欲、作品製作における意欲等を評価します。評価対象は、授業中の態度、準備・後片付け、提出物、製作時の手数、定期テスト等です。

4 学習の進め方

実習活動が中心となります。

各自の活動を基本とするが、教材によってグループ学習を行うこともあります。

教科書を補充するものとして副教材やタブレットを使って、知識や技能を深め定着を図れるようにします。

家 庭

1 はじめに

中学校の家庭科では生活や技術に関する実践的・体験的な活動を通して、より良い生活を工夫する能力を身に着けます。調理や裁縫などの実習もあります。

2 学習のねらい

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考慮したことを論理的に表現するなど。これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

家庭科の評価は、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの観点別評価がある。

観点Ⅰ 知識及び技能

用具や道具を正しく安全に使い、課題に対しての発想、構想したことをもとに材料や用具の特性を生かし、見通しを持って技術を適切に活用する技能が身に付いているか、それが作品に反映されているかを評価します。評価対象は 作品、定期テスト等です。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

学習したことについて、考え、工夫し、自ら課題を見付け、工夫しようとする能力を評価します。評価対象は、作品、実習、レポート、定期テスト等です。

観点Ⅲ 学びに向かう力、人間性等

授業に向かう意欲、作品製作における意欲等を評価します。評価対象は、授業中の態度、準備・後片付け、提出物、製作時の手数、定期テスト等です。

4 学習の進め方

・各自の活動を基本とするが、教材によってグループ学習を行うこともあります。

・教科書を補充するものとして副教材やタブレットを使って、知識や技能を深め定着を図れるようにします。

英 語

1 はじめに

1年生の授業では、英語という言語の特性や基礎となる単語や表現を学習していきます。小学校の復習、身近な表現、単語の調べ方などから学習します。

1年生の英語は、建物でいうと「土台」です。3年生で崩れない立派な建物になるよう、しっかりとした基礎力を付けることが大切です。失敗を恐れずに何事にもチャレンジし、英語に積極的に触れていくようにしましょう。

2 学習のねらい

- (1) 英語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。
- (2) 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。
- (3) 聞くこと、話すこと（やり取り・発表）、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎の力を付ける。

3 評価の観点と主な評価資料・成績について

観点Ⅰ 知識及び技能

- ・英語の語句の意味や文のきまりに関する知識を、定期テスト、小テスト（単語テストなど）などで評価します。
- ・英語を使って表現する技能を授業の様子、スピーキングテスト、英作文（提出物）等で評価します。

観点Ⅱ 思考力、判断力、表現力等

- ・様々な場面に応じて、英語を表現する能力（話す、書く）を定期テスト、授業の様子、スピーキングテスト、英作文（提出物）等で評価します。
- ・様々な場面に応じて、英語を理解する能力（聞く、読む）を定期テストのリスニング・長文読解を中心に評価します。

観点Ⅲ 学びに向かう力、人間性等

- ・授業に取り組む姿勢
授業に取り組む姿勢やコミュニケーション活動への積極的な参加を評価します。単語や文は間違いを恐れず大きな声で発音してみましょう。それが理解・定着への第一歩です。
- ・ノート
定期的に提出を求め、それを評価します。しっかりと予習・復習をして、授業に臨むことが大切です。また、自分なりの気づきをメモしてみましょう。
- ・ワーク等
定期的に提出を求め、それを評価します。

4 学習の進め方

英語は予習・復習が必要な教科です。授業で学習する前に、自分で事前に単語の意味や本文写しをノートにしておいたり、授業後にノートをまとめ直し復習したりすることで、より深い理解につながります。

また、言語の学習では、個人個人の努力がとても大切です。声に出しながら書くことは単語を覚えるときに、とても良い方法です。授業での音読を大切に、単語の読み方をしっかり覚えましょう。そして、家庭学習でも声に出しながら英語を書いたり、問題に答えたりしましょう。ひとつひとつ丁寧に努力を重ねれば、必ず力がついてきます。

英語の学習は「努力」がキーワードです！頑張りましょう。

家庭学習の手引き		三中 内海小 大野小 3校 中学校版		海南市立第三中学校
教科	予習の仕方	復習の仕方	宿題の取り組み方	各自の課題・補充学習の深め方
国語	○新出漢字の練習をする。 ○教科書を読む。 ○わからない漢字や語句をチェックする。	○教科書を読み返す。 ○授業内容を確認し、理解を深める。 ○漢字は、ワークを使うなどして何度も練習する。 ○分からない語句は、辞書を使って調べ、用例や関連する言葉を調べる。	○漢字練習ノートやプリントを使って学習する。 ○教科書や授業で配られた資料を活用する。	○国語科は、日頃からの地道な努力で力がついていく教科です。 ○国語辞典や漢和辞典を引いたり読んだりしてみてください。 ○好きな詩や歌を見つけて覚えましょう。 ○朝読書に熱心に取り組みましょう。
社会	○教科書を読み、重要なところにマーカーをし、あらましの内容をつかむ。	○教科書を読み、授業内容をノートで確認して理解を深める。 ○わからない語句は、教科書や資料集などを活用して調べる。 ○ワークに取り組み、間違えた問題は特に繰り返して解くようにする。	○まずは自分の力で問題に取り組む。わからない場合は教科書やノートで調べながら解く。 ○丸付けを確実にを行い、解説もしっかりと読み、理解を深める。	○社会科は、予習や復習など自分1人での学習が必要な教科です。問題を解き、間違ったところや分からないところはもう一度確認し、分からないままにせず、先生に聞くようにしてください。 ○ニュースを見たり、新聞を読んだりして、社会や世界の事がらに興味を持つようにしましょう。 ○疑問に思ったことは自分で調べてみたり、先生に質問したりするようにしましょう。
数学	○教科書を読み、あらかじめどういった内容を学ぶのかを確認した上で授業を受けることで、理解力の向上につながるでしょう。	○その日のうちに学習した内容を、教科書やワークを使い、類題をたくさん解くようにする。 ○プリント等は必ずその日のうちに整理しておく。 ○間違えた問題は必ず赤で書き直し、なぜ間違えたのかを考えるようにしましょう。	○まずは自分の力で5分は考えよう。考えても分からない場合は、教科書やノート、例題を参考にしましょう。 ○提出期限を必ず守るように努力しましょう。 分からないから白紙で終わるのではなく、友達や先生にアドバイスを聞くようにしましょう。	○数学科は、日々の積み重ねが大切になる教科です。その日に学習したことは、明日以降も使うことが多いので、忘れてしまわないように復習し確認しておこう。 ○問題をやってみて間違えたときがチャンスです。なぜ間違えたのかが分かれば、次はできるようになります。間違えた問題は2回、3回とチャレンジしましょう。 ○苦手意識のある人は、まず、自分はどこが分からないのかを分析することが大切です。そして基本的なところからもう一度取り組むようにしていきましょう。
理科	○基本的に理科の予習は必要ありません。実験結果などをあらかじめ知ってしまうと実験の楽しさが半減してしまいます。理科は予習よりも復習に力を入れましょう。	○その日に習った内容の復習をする。 - 教科書を読み、授業内容を確認し、理解を深める。 - 自分のノートやプリントをさらにまとめたり調べたりする。 ○その1週間に習った内容の復習をする。 - ワークやプリント等の問題を解く。 ○テスト発表中に復習する。 - 前に間違えた問題を自分の力で解けるかやりなおしてみる。	○定期的に宿題が出されます。 - まずは自分の力で解く。 - 分からないところは、教科書やノートを見て解く。 - 丸つけも確実にする。間違えた答えは、正しい答えを書き写し、解説も読む。 ○レポートの宿題が出されます。 - 目的を理解する。 - 方法や手順を理解しておく。	○理科は、興味が出るとすごく伸びる教科です。 - 自分が疑問に思った現象などについて、自分で調べてみましょう。 - テレビやネットなどで科学的なことに触れてみてください。 ○理科は、繰り返しやらないと忘れてしまう教科です。基本的な問題でも、半年くらい後にやろうとすると忘れてしまっていて解けないことがよくあります。そうならないために、次の3点についてしっかり取り組んでください。 - まずは、習ったその日にノートなどを使って復習をしましょう。 - 次に、ワークやプリント等の問題で反復しましょう。 - 最後に、定期テスト前に一問一問、丁寧に解きましょう。
英語	○辞書や教科書の後ろにある Word List を活用して、英単語の意味調べをし、書く練習をする。 ○本文をノートに写しておく。	○その日に習った内容の復習をする。 - 新出語句をノートに書いて憶える。 - 日本語を確認しながら、英文が正しく書けるように練習する。	○出された課題は必ず提出期限までに出す。(わからない所はあけておく。) ○授業を振りかえり、覚えていない単語や英語表現をチェックし、覚えなおす。 ○覚えていなかった英単語や英語表現などは、くり返し練習する。	○英語科は、予習や復習など自分1人での学習が必要な教科です。また、積み重ねの教科です。言語の教科なので、使わないとすぐに忘れてしまいます。一方やればやるほど伸びる教科とも言えます。 ○英単語は声に出して読み、何度も書いて覚えてください。 ○リスニングは、スクリプト（原稿）をチェックし、内容を理解した上で、英語を何度も聞いて、慣れていってください。 ○ワークなどを使って問題を解く練習をしてください。

家庭学習の手引き《実技教科の心構え》

三中 内海小 大野小 3校 中学校版

海南市立第三中学校

教科	授業の準備	授業の活動・評価	約束事その他
音楽	○忘れ物をしない。 ・教科書 ・ファイル ・リコーダー	○実技テストについて：取り組む姿勢と技能を総合的評価にします。 ○鑑賞について：鑑賞した作品について音楽を形作る要素に着目したり、作者の思いを知ったりすることで曲に表現されているものを聴き取る力を評価します。 ○知識について：単元ごとに小テストを行い、理解できているか、などを評価します。	○提出物は必ず提出する。 ○プリントの提出は、遅れても必ず出すこと。
美術	○忘れ物をしない。 ・教科書 ・資料集 ・スケッチブック ・その他、授業に必要な用具等	○準備物の忘れの有無、作品の提出期限がきちんと守れているか。 ○与えられた課題に対して、のびのびと豊かに構想できているか。 ○与えられた課題に対して、創造的な技能が発揮できているか。 ○自分の作品や他の生徒の作品、歴史的背景も含め世界の美術、日本の美術等を学習することにより、作品の美しさや作者の想いを読み取れているか、などを評価します。	○授業の準備物等を忘れない。 ○作品を完成させて、期日を守って提出する。
保健 体育	○授業の心構え ・準備物…「中学校体育実技（3年生）」、「ステップアップ中学体育（1・2年生）」体育ファイル、筆記用具の3点を体育セットとします。（保健は中学保健体育、保健学習ノート、筆記用具） ・服装…体操服（身だしなみを整えて、心身ともにさわやかな気持ちで授業に臨みましょう。） ・準備運動…その競技に合ったウォーミングアップ、体力向上のトレーニング（その後、全員でラジオ体操第2を行う。体を動かすだけでなく、号令の声もしっかり出して、元気に体操をします。）	○知識及び技能について ・「運動の特性や成り立ち」「技術（技）の名称や行い方」などについて、年間3回の期末テスト、ワークシート、授業中の発言の中で評価します。【知識】 ・個人種目や対人種目、集団種目などの運動の特性に応じて、実技活動を評価します。【技能】 ○思考力、判断力、表現力等について ・授業中の安全面への配慮、友だちへのアドバイス、発言、学習カードや保健学習ノートの内容等も評価します。自己や仲間の課題の発見や解決に向けての運動の取り組み方の工夫や、自分の考えを話したり、記入したりなど、表現方法を駆使して他者に伝えられているか。 ○学びに向かう力、人間性等について ・授業態度（授業への取り組む姿勢、欠席、見学、服装、忘れ物、提出物、遅刻、準備や後片付け等も含む）を総合的に評価します。自己の課題を捉え、自分に何が必要かを分析して取り組んでいるかや、粘り強く学習に向かう姿勢があるか。	○規則正しい授業 ・服装を正す…シャツはズボンに入れる。腕まくりをしない。腰パンをしないなど。 ・挨拶、返事、受け答え…初めと終わりの挨拶は、集中した状態を作ることがとても大切です。呼名に対しては、「はい」としっかり返事をしよう。 ・忘れ物をしない。 ○安全面への留意 ・単元の始めには、安全面での注意事項を確認します。それらを必ず守ること。 ・ケガのないように、集中して取り組むこと。 ○その他 ・様々なスポーツを知ろう。（TV等メディアを通してプロ選手によるスポーツを見ることがや実際に競技場に行って観戦したりしてスポーツを楽しもう。）
技術 ・ 家庭	○忘れ物をしない。 ○作業や実習のある時は、とくに安全に気を付けて授業に臨みましょう。	○学習活動に対する心構えと計画を確認する。 ○活動中に出てきた疑問点について解決しようとしている。 ○学習した技能を高めていこうとしている。 ○活動するのに必要な知識を持っている。	○実習には、真剣に取り組む。 ○自分の考えを示してから質問する。 ○できるだけ自分の考えで解決できるようにする。 ○作品や提出物の期限を守る。